

陳 情 文 書 表

受 理 番 号	陳 情 第 1 1 号
件 名	B R T 事業の予算執行停止を求めることについて
要 旨	<p>5月26日、新潟駅万代口乗り場でバス利用者の計測の手伝いをしました。市が連節バス導入の理由としてきたラッシュ時の乗り残しはなく、乗客が少ないことからむしろ一般バスから小型バスへの切りかえが必要と思われるほどの現状でした。</p> <p>連節バス運行は現状に逆行しているものであり、必要ではなく無駄遣いです。同時に乗客の生の声を聞くことができました。</p> <p>「郊外の病院に通っています。病人にとって乗りかえは大変で、もう行けなくなります。」「駅まで少し遠いけれど、バスで乗りかえるよりはよいので、今後は電車を利用します。」「主婦は外出のついでに買い物をする。荷物を持っての乗りかえは大変です。古町まで行かず青山イオンで済ませます。」(西区の女性)</p> <p>市は「乗りかえ時の負担を軽減するため、待合所に冷暖房を……」と言っていますが、乗りかえそのものが負担なのです。利用者の減少が予想され持続可能になるとは考えられません。</p> <p>まず連節バス購入ありきではなく、利用者である市民への聞き取り調査を最初に行うべきだったのではないのでしょうか。</p> <p>5月16日のフォーラムでも講師の先生が、市民との話し合いが大切とおっしゃっていました。</p> <p>6月3日に行われた試乗会では、新バスは御高齢の方には優しいつくりとは言えず、町なかを走らせるには適しているとは思えないものでした。コースで回った白山駅前では、長い年月、市民が大切にしてきた立派な2本の松の大木がなくなり、殺風景な光景に胸が痛みました。</p> <p style="text-align: right;">(裏面につづく)</p>
付 託 年月日 委員会	平成 27 年 6 月 18 日 環境建設常任委員会
受 理	平成 27 年 6 月 12 日 第 1 4 4 号

陳情第11号

連節バスを走らせるためにたくさんの緑が失われています。自然に優しくないということは人にも優しくないと言われています。BRT事業にあらわれているようです。

BRT事業の予算執行停止を求め陳情いたします。